令和６年度　静岡大成中学校　学校評価書

＜評価基準＞　A 目標達成度 80%以上　B 目標達成度 50%以上 80%未満　C 目標達成度 30%以上 50%未満　D 目標達成度 30%未満

分野	目標（評価項目）	自己評価書		学校関係者評価委員会	
		評価	学校としての成果と改善点	評価	ご意見
1. 目指す教師	①「自律・対話・行動」を自ら実践することができる。	B	日頃から生徒とよく会話し、信頼づくりに努めた。中学生に対しては教員側から働きかけることが多いので、生徒の選択の幅を広げ、自分で選べる場を作っていく必要がある。	B	全学年がチーム担任制2年目を終え、各チームでコミュニケーションを図りながら情報共有をし、良い雰囲気で仕事をしている様子が伺えた。
	②当事者意識を持って問題を解決することができる。	A	学年チームで連携し、情報共有に努めた。お互いの不得手な部分をカバーしながら生徒や保護者に寄り添った指導を行い問題解決に努めた。	A	
	③対話によって相互理解と相互承認を図ることができる。	A	生徒と会話の機会を増やし、生徒の気持ちに寄り添うことができた。教員側の意図が伝わらないときもあるが、チームで協力して全員の目で生徒を見守った。	A	
	④私学人としてのビジョンを持ち学校を変えていくことができる。	B	中学生の保護者は学習、成績、進路への関心が高く、子どもへの期待が大きすぎる傾向にある。保護者と連携にしながらその生徒にとって何が大切かを考えた指導を心がけたい。偏りがある生徒も多いため、落ち着いて登校できる環境づくりを大事にしたい。	B	
2. 対話による教育活動	①対話を通じた生徒主体の進路実現〔進路部〕	B	今年の 3 年生は公立高校への進路意識が高く、静岡大成高校への進学希望が少ない学年だった。内部進学者を増やすための進路計画をしっかり立てる必要がある。	B	今年度新たに始めた「Taisei Time」「SEEL」等の主体性・対話性のある授業に代表されるように生徒の得意なことや個性を伸ばす取り組みが良い。今後も継続していくことでさらなる効果を期待する。
	②対話的な学びの場の創造〔教務部〕	A	今年は SEEL や Taisei time の導入により、対話型の学習機会が増えた。次年度も継続しながらさらに学びが深まるような授業展開を工夫していきたい。	A	
	③対話を通じ一人ひとりに適切な支援や指導〔生徒部〕	B	家庭に大事に育てられた子どもが多く、考え方が幼く、素直な生徒が多い。悪気なく発した言葉や行動が思いやりにかけていることがある。SEEL や日常での声かけを通して、コミュニケーションスキルの向上につなげたい。	B	
	④ICT スキルの向上と全員広報活動の推進〔総務部〕	B	テスト導入した自動採点システムを積極的に活用した教員が多かったのは良かった。 インスタで生徒の様子を確認している保護者が多く、安心感を与えることができた。	B	
3. 当事者意識による組織づくり	①対話によるコミュニケーションの充実	B	チーム担任制で対話の機会や相談しながら対応する機会が増え、教員の安心感につながった。	B	来年度から土曜授業がなくなることについて、これまで部活の試合や学外クラブ活動などで、授業運営や生徒の活動に影響があったが、今後は生徒にとっても安心して活動できるのでないか。 また、小学生が大成中学校を選ぶポイントにもなるのではないか。 教員は人を育てるやりがいのある仕事だと思うので、そのやりがいの搾取にならないような働き方改革を進めていってほしい。
	②業務内容と勤務の改善	B	月曜日の定時退勤は定着した。中学はスターライトがある日の定時退勤は難しい。高校校舎に比べると勤務超過になりがちな教員が多くなるため改善が必要である。	B	
	③法令や服務規律の遵守	A	全員が遵守した。	A	
	④社会意識や教育活動の向上	A	教員自身がお手本として生徒に接していくように心がけた。チームでの対応が定着し、役割を分担しながら業務に当たっていることで教員に余裕が出てきた。	A	
	⑤教育環境の整備	B	今年は施設の破損が多くみられた。鍵付きのロッカー等の導入も検討したい。	B	
4. 自己目標	（教員が各自で設定した目標）	B	教員各自が自分の課題に対して努力していた。	B	－